

2024 年度 事業報告書

2024 年 1 月 1 日～12 月 31 日



地域の自然を次代が継承できる仕組みを目指した
第 2 回浜中環境意見交換会

特定非営利活動法人 シマフクロウ・エイド

【2024 年度 事業報告書】

定款の 事業名	実施者	事業名	事業内容	時期	人数
保護・保全事業 < 研究部門 >					
シマフクロウ の保護・保全 及び支援する 事業	自団体	給餌の利用状況調査 	釧路総合振興局管内に生息するシマフクロウ1つがいを利用する給餌池の利用状況調査を通年実施した。赤外線カメラ映像による 24 時間体制で、給餌池に飛来するシマフクロウの1つがいの利用頻度、繁殖行動等の基礎データを蓄積した。	通年	1
	自団体	巣箱内調査	釧路総合振興局管内に生息する個体の繁殖時の給餌の利用状況として本種の餌種を解明する調査を実施した。2024 年は繁殖行動が見られなかったため、引き続き 2025 年 1 月以降次期繁殖に向けた調査準備を進めた。本調査は環境省のシマフクロウ保護増殖事業に成果を還元するものである。	1-3月	2
//	自団体	論文投稿	2017 年 1 月～2020 年 1 月迄に取得した給餌の利用状況調査結果を解析し論文にまとめ、環境省の確認を経て論文投稿し正式受理され、令和 7 年春に釧路市博物館紀要にて刊行となる。	1-2月	4
				12月	3
シマフクロウ の保護・保全 及び支援する 事業	自団体	GPS 行動圏調査	上記調査結果を詳細に分析したところ、本つがいが特定の季節に人工給餌池以外の餌場を利用している可能性が示唆された。本種が将来自然状態で自立していくためには詳細の行動圏を把握しその永続的な保全を進めることが重要だと考えられたため、GPS 行動圏調査実施の必要性を関係者と共有し理解を求めた。しかし成鳥保護のため実施の許可は下りなかった。 そのため、IC レコーダー調査に切替えて実施を開始した。	1月～6月 11～12月	3
//	自団体	繁殖確認調査	釧路総合振興局管内における既存ペアが生息する 3 箇所で繁殖確認調査を適期に実施した結果、2 地点で 2 つがいの繁殖を確認した。そのうち 1 つがいは途中で巣箱から出て繁殖失敗となり、もう一方のつがいは 1 羽の幼鳥が巣立ちした。残り 1 つがいは繁殖の痕跡が確認出来なかった。		

シマフクロウの保護・保全及び支援する事業	自団体	<p>補助給餌</p>  <p>補助給餌</p>  <p>保水力が失われている井戸</p>	<p>繁殖を補助する給餌池への給餌や井戸の管理として、活魚補充時の対応、死亡した活魚の除去、給餌池や井戸及び送水管の取付等維持管理、日中のワシ類等の食害対策を毎年実施した。おさかな寄付で1月と3月に活魚合計80kgを購入し給餌池に放流した。給餌池には、成鳥ペアが通年にわたり日没後から夜明け前迄利用した。</p> <p>日中のワシ等による活魚の食害対策は、90cm×90cmのフロートを給餌池に5枚設置し魚が隠れる場所を確保し食害を防止した。シマフクロウが利用する日没後から夜明け前迄の時間帯は3枚に減らす対策を毎日行った。</p> <p>給餌池のフェンスの腐食が酷く、強風で一部決壊し、キツネが侵入する事が確認された。翌日に補修をしたが、補修では間に合わない状況が続いている。</p> <p>本給餌池に供給している井戸水は保水力が失われており、利用しているつがいに安定的な給餌を続けていくためには、新たなる水脈に井戸設置が必要で、今年度も管理組織に提案したが昨年に引続き具体的アクションは無かった。</p>	通年	4
----------------------	-----	---	--	----	---

保護保全事業 <環境保全部門>

シマフクロウの保護・保全及び支援する事業	<p>自団体 浜中町役場</p> <p>自団体 釧路総合振興局</p>	<p>政策提言①</p> <p>政策提言②</p>	<p>R7年度浜中町環境基本計画改定検討委員会にて、地域の自然環境の持続的な保全の仕組みとして、森・川・湿原・海の一体的なつながりを重視した流域保全を基本方針とした、森と海をつなぐ河川環境の保全に特化した条例案などを提案した。</p> <p>観察を続ける3つがいの生息環境の長期的な生態系の改善に向けて、既存生息環境の森林施業や鹿食害等が影響し、本来あるべき落葉広葉樹を主体とする河畔林や水源林の天然更新の阻害や河川への土砂流入増、水生生物の減少傾向があり、河口の漁業への影響も懸念が増している。</p> <p>そのため、関係機関と現地検討会を実施し現状を共有し、北海道が昨年11月に施行された北海道生物多様性保全計画(第2次計画)に則り、森林施業の影響下にあるつがいの生息環境の長期的な改善に向けて、流域や山系等を基盤としてつながる複数の生態系の包括的な機能向上を進め、将来の生息環境の向上が展望できるゾーニングの変更を求めた。</p>	<p>9月</p> <p>11月</p>	<p>6</p> <p>8</p>
----------------------	---	---------------------------	---	----------------------	-------------------

シマフクロウの保護・保全及び支援する事業	自団体 浜中町	<p>生息環境の保全</p>  <p>改修された河川の再生</p>	<p>1つがいのテリトリーとなっている周辺河川において、1970年代に地主によって河川改修された区間が、現在土砂が溜まり水生生物が減少し支流との合流点付近が埋まっている状況が確認された。地主へのヒアリングでは河川改修以前はサケ遡上が確認された。この現状は、河口域の漁業の持続的な栄養塩供給等の懸念でもあることから、漁協と連名にて9月陳情書を町長に提出した。</p> <p>改善に向けて、専門家を招聘し関係機関と現地検討会を12月に開催し今後の対策を検討した。</p>	9月 12月	6 9
	自団体	<p>魚類調査</p> 	<p>上記エリアの水系における魚類等水生生物調査はこれまで実績がないことから、現状を把握する調査を実施した。調査地はヒグマの高密度生息地帯で、周囲のトドマツの爪跡やミズバショウの食跡が多数確認された。少雨が続く平時よりも河川水量が少ない条件だったが、絶滅危惧種Ⅱ類(UV)のエゾトミヨをはじめ、ウキゴリ(目視)、ヤゴ、チラカゲロウ、モンカゲロウ、ヘビトンボ類、スジエビ、ヨコエビ類など水生生物9種を確認、その他主な鳥類、植物を記録した。</p>	6月	5
	自団体 北海道釧路総合振興局森林室 浜中町 散布漁協 浜中漁協 散布小学校 森作り研究者 浜中町内小中学校 山崎林業	<p>生息環境の保全・再生(協定事業) 浜中町 森里海をつなぐシマフクロウ地球の森づくり</p>  	<p>本種の生息可能域の保全・再生と、関係地域の農林水産業の持続的保全、北海道知事が公約としたシマフクロウの森の再生の同時解決を目指した協定に基づく水源林再生と地元を主体とした保全体制の構築を推進した。</p> <p>森づくり協定事業4年目は、道有林内2か所合計1700㎡に防鹿柵を設置し、地元小中学校2校のべ72名の総合学習にて800㎡に在来種の実生群ポット苗25種176株を植栽した。</p> <p>植栽3年目の苗木の生長は、オオバボダイジュが62倍、ウダイカンバ29倍、ハルニレ20倍、カツラ10倍など本種の繁殖に関係する樹種をはじめ顕著な成果が確認された。本事業を通じ関係地域住民や関係機関へ、シマフクロウが生息出来る環境の意義と持続可能な農林漁業との関係への理解を一層推進した。</p> <p>4年間の植栽面積はのべ4200㎡となり、6年後以降は種子散布によって約200倍の在来広葉樹種の遺伝子の生息域拡大が想定されている。</p>	4月 5月 6月 10月 11月	6 48 28 6 10

シマフクロウの保護・保全及び支援する事業	自団体	生息環境の保全・再生 (地主との相互理解)	河川上流部に隣接する酪農家地主に、河川への直接的な土砂等の流入を防ぎ、川の生物多様性と子どもたちの環境教育の場の保全につなげる目的で、在来種による河畔林造成の必要性を伝え、趣旨にご理解賛同いただいた。	7月	4
普及・啓発 事業					
シマフクロウをシンボルとした環境教育事業	自団体 浜中中学校 霧多布小学校 散布小中学校	豊かな海を育む 森づくり学習   	環境保全事業(浜中町 森里海をつなぐ シマフクロウ地球の森づくり)の一環で、流域に関係する浜中町内小中学校 3 校の総合学習にて「豊かな海を育む森づくり学習」を実施。環境バロメーターとなるシマフクロウを指標とした生きもの同士のつながりや一次産業の関係について、体験学習を企画した。 室内レクチャー後、水源地にて植栽、学習の理解を深めるネイチャーゲーム等を実施。5月に浜中中学校27名、6月に霧多布小学校 19名、9月に散布小中学校 38名、ほか森づくり指導研究者、漁協、役場農林課がサポートしのべ91名が楽しみながら理解を深めた。 植栽3年目の学校では、植えた苗木を計測・記録を通じて、樹木の顕著な成長ぶりに驚き実感し、木の生長に対する疑問や樹種による生長の違い、周辺の生息する他の樹木への関心など、地域の水源林への今後の学習意欲が増進した。後半は、水源地周辺の河川上流の生きもの探しを実施し、エビ類や魚類、両性類など児童自らが発見した生きものを観察し、生きもの同士の食う食われる関係を学び、楽しみながら森・川・海をつながりについて理解を深めた。	5/28 6/13 9/9	33 22 43
シマフクロウをシンボルとした環境教育事業	茶内小学校 浜中小学校 散布小学校 霧多布小学校	森と海をつながり を考える学習 	本種の生息環境保全と一次産業の持続的保全に関する地域の全小学校 3・4年生を対象に、森川海の相互のつながりや一次産業との密接な関係について体験的に学ぶ「森と海の繋がりを考える学習」を町教育委員会後援のもと初企画実施した。 魚類専門の吉田理事が講師となり、シマフクロウが主食とする森と海を行き来	7/23 8/28	69 10

		 <p>総合学習発表会</p>	<p>する実物の魚を目の前で観察しながら、魚の生態を学び、森から海、海から森への物質循環スケールを体感し、生き物目線で町の自然やその仕組み、漁業との関係を楽しく学び合った。</p> <p>総合的な学習発表会で児童らは、「森から海、海から森」への生きもの等の循環についてさらに調べ学習を進め、森と海の繋がりを表現するジオラマを作成、それを元に海から森に遡上する魚の様子を動画で撮影したものなど、各自が工夫をこらした発表を行い、来場した地域住民の関心を集めた。</p>		
シマフクロウをシンボルとした環境教育事業	自団体、浜中町	   <p>浜中環境意見交換会</p>	<p>地域の自然を次代に継承するには、町の自然の仕組みや歴史を知る子どもたちの郷土学習が不可欠であるため、その学習を長く提供し続けるために大人がサポート出来ることを考えた第2回はまなか環境意見交換会を11月24日浜中町と共催で開催した。</p> <p>基調講演として、シマフクロウの視点から浜中町の森、川、海の自然環境が衰退している状況や、次代を担う子どもたちがこの地で生きていくために必要な地域の自然の仕組みや歴史を知る学びを長く提供するために、大人が協力してサポートする仕組みの重要性について、佐藤副代表理事が説明した。</p> <p>またこれまで地域の子どもたちに実施してきた地元ならではの自然の仕組みや歴史を学ぶ環境教育を受けた子どもたちの声を事務局長から紹介した。</p> <p>それらを受け後半は、参加した町民が主役となる意見交換会を展開し、次世代の子どもたちが豊かな自然の恵みを継承するために大人が協力できることについて20代～70代の多世代でアイデアを出し合い、過去の良い取り組みの見直しの復活など、秀逸な意見が出そろった。同日午前中には、地元のお宝再発見ツアーを開催した。町長、教育長はじめ町民のべ26名が参加した。</p>	11月	32
広報事業	自団体	ホームページ、印刷物による広報	<p>当法人の支援者様を対象に会報を4月、8月、12月に発行し、季節のシマフクロウの行動等の紹介、調査・研究、環境再生、教育活動、関連ニュース等を紹介し、当活動への一層の理解や関心を深めていただけるよう努めた。</p> <p>また感謝チャリティTシャツを初制作し支援者限定で頒布し、オンライン交流会を初開催した。</p>	4月、8月、12月 通年	350 不特定

			そのほか随時、SNS やウェブサイトを通じ、シマフクロウが直面する課題や当活動、関連ニュースなどを発信した結果、国内外のべ 10 万人以上に広報を展開し、シマフクロウの保護保全への理解や当活動意義の広報に努めた。		多数
	釧路新聞、北海道新聞、広報はまなか、HBC ラジオ	メディアによる広報	釧路新聞社、北海道新聞社、浜中町広報はまなか、から計8回の取材を受け、環境教育・環境再生・普及啓発事業をご紹介いただいた。また HBC ラジオから電話取材を受け当活動を紹介いただき、広く活動周知に努めた。	5月、6月 8月、9月 11月	不特定 多数
上記に付随する事業	(株)ダイナック、(同)ピッコロ、(株)アトリエ・モリヒコ、ソフトバンク(株)、(同)NORTH CREATE (順不同・敬称略)	事業型連動寄付  人間社会と本種が共存できる環境づくりにご賛同/出典:合同会社ピッコロ様ウェブサイト	当活動趣旨にご賛同いただいた企業・団体様等が、売り上げの一部をご寄付いただく事業型連動寄付において5社からご寄付をいただいた。 2022年から開始いただいた株式会社ダイナック様と展開中の「北国とミルク」事業型連動寄付では、浜中町の乳製品を使用したイタリアンメニューの売上の一部を寄付いただいた。 2020年から開始いただいた合同会社ピッコロ様で展開中のシマフクロウオリジナルキャラクター雑貨による売り上げの一部を毎月ご寄付を頂いた。 2018年から開始いただいている古本募金ハピ本様、2019年から開始いただいている株式会社アトリエ・モリヒコ様、ソフトバンク株式会社つながる募金様から、今年度も引き続き対象商品の売上の一部をご寄付いただいた。	通年	不特定 多数
上記に付随する事業	任意団体 森里海を結ぶフォーラム、ふるさと創生大学	関連イベントの支援 	森と海をつなぐ水の循環や多様ないきものの繋がりについて、上下流に暮らす人々が学び合う「第4回森里海を結ぶフォーラム」が開催され、実行委員に参画している当理事は広報を中心に支援にあたった。開催地は縄文時代から森と海に暮らす人々が交流を続けてきた縄文文化が多数現存する岩手県住田町。 気仙川がつなぐ上流の住田町と河口の陸前高田市から郷土の森里海に関する多数の講演や活動が展開され、町内外からのべ100名が参加した。	4～ 10月	110+

特定非営利活動法人 シマフクロウ・エイド

〒088-1366 北海道厚岸郡浜中町茶内橋北西 85 番地

TEL FAX : 0153-65-2183 Email : office@fishowlaid.jp

<https://fishowlaid.jp/>